

日本の学童ほいく

全国学童保育連絡協議会

普及拡大 ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万4000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2024年3月8日

元気が出る
みんなの
取り組みを
ご紹介

楽しく普及拡大

九州・沖縄の取り組みを紹介します！

子ども、保護者も、指導員も、読み応えのある記事が満載です！

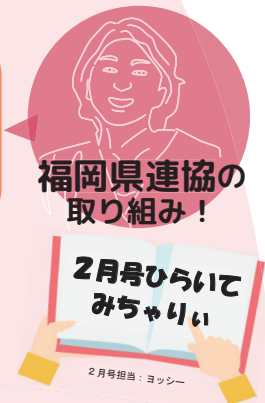
さあ！
ほいく誌購読の
輪を広げよう！
仲間を増やそう！

ほいく誌の読み合わせ会を、月に2回実施！ おやつレシピーや、あそびなど、学童保育で活用できる、記事を紹介。唐津市では保護者を含めた全員購読が実現しました！



佐賀県連協の
取り組み！

ニュース「ひらいてみちゃりい」は2019年5月号から継続して発行。県連協役員と北九州市の保護者が原稿執筆。皆さんに購読してもらうための工夫をしています！

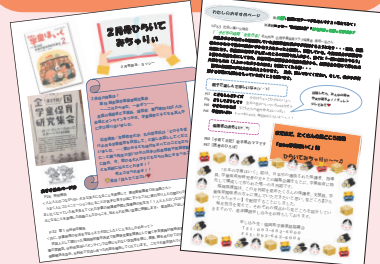


福岡県連協の
取り組み！



長崎県連協の
取り組み！

ほいく誌の普及拡大ニュース「みてみんな」を発行！ 新旧モニター会議の開催。県の研究集会でも、ほいく誌のアピールタイムを企画中です！



大分県連協の
取り組み！

ほいく誌への関心・普及拡大の取り組みとして、子どものイラスト投稿を呼びかけています。放課後児童支援員認定資格研修でもほいく誌の紹介しています！



熊本県連協の
取り組み！

2008年7月号の36部から、2023年7月号は182部へ、購読数が拡大してる。2019年、中津市連協設立。日田市の指導員が執筆した2021年4月号を県の研究集会で見本誌として配布！



沖縄県連協の
取り組み！

連絡協議会の加盟数を増やし、学童保育運動を支えるほいく誌の全世帯購読を推進！ “特別な何か”ではなく、指導員や保護者の日常会話に、あたりまえのように『日本の学童ほいく』がある！



鹿児島県連協の
取り組み！

ニュース「読んでみやんせ」を発行！ さつま町学童クラブ連絡協議会（2023年9月発足）が、2024年の2月に開催した指導員研修会で、普及拡大のために見本誌を配布！

日本の学童ほいく 3月号

特集 学童保育の生活づくり

今回の特集では、コロナ禍を通じて、感じてきたこと・気づいたことをふまつつ、子ども・保護者・指導員が共に行う「学童保育の生活づくり」について、大切にしたいことをあらためてたしかめあいます。

*「生活づくり」=子ども・保護者と指導員が共に行う、「子ども一人ひとりと、子どもたちの生活内容を豊かにするための継続的な営み」のこと。



日本の学童ほいく

みんなで読もう目標 3万4000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

普及拡大 ニュース

2024年3月8日

読者の声

京都府長岡京市 ● 指導員から

2023年10月号からはじまった須藤敏昭先生の講座「子どもの遊び」を毎月楽しみにしています。子どもがなにをおもしろがって遊んでいるのかという視点から、遊びについて考える……。なんておもしろい！とワクワクした思いで読み進めています。

「しなければならないこと」「役に立つこと」に多くの子どもたちが追われていると感じるこの頃、いやいや一番大事なのは、「おもしろいこと」やる！（それは子どもだけでなく大人も！）と思っている私をばげましてくれる、そんな連載です。

私は学校内にある学童保育で働いています。安全ではあるけれど、遊び場としてのおもしろみに欠けるのが残念だなと感じています。ただっ広い運動場だけでなく、隠れられる場所があったり、豊かな自然があったり、そんなところで放課後の時間を過ごせたら、どんなにおもしろいかと想像を膨らませながら、いまある場所のできる「おもしろいこと」を子どもたちと一緒に探しています。

2023年11月に開催された全国学童保育研究集会では、「子どもの放課後・地域生活を考える」の分科会に参加しました。遊びを学校の敷地内で完結させてはいけませんね。地域に出たらおもしろいことはいっぱいあると、教えてもらいました。

『日本の学童ほいく』2024年3月号「読者のひろば」より

私と「ほいく」誌

読者リレー執筆・今月は鳥取県鳥取市から
さいごう児童クラブ・指導員の櫛谷由貴さん

2017年4月、現在の学童保育で指導員として働きはじめたときにはじめて『日本の学童ほいく』を知りました。4月、いきなり常勤指導員となり、右も左もわからずひとまず部屋に置かれていたほいく誌から、必要な記録や出欠確認のこと、子どもとの遊びなどピンポイントで調べまくったことを覚えています。

最初は毎日無事に子どもたちをどう見守るかが目標でしたが、「いや待てよ、外出や季節の行事などまだまだできることはある！」と、ほいく誌に刺激されて、今では映画外出、川遊び、上学年宿泊、夏祭り……など、子どもと話しあい、保護者や地域の方々の協力もあり、行事が増えてきています。指導員4年目には娘が、7年目は息子が、学童保育に入所し、現在は指導員でもあり、母でもあるという状況です。

当初は、指導員として助けてもらったほいく誌でしたが、今は「働く母」として、ときにねぎらってもらっている気がして癒されています。働くためとはいえ「なんだかごめんね」と感じながら気が付けばもう10年……。 「遅くなった～ごめんね」と保護者が迎えに来たときには、子どもが「あ～楽しかった。（さみしくなかったよ）」と帰ってほしいし、その姿を見て親も「ごめんね」の気持ちが続かなければいいなあ、と思っています。いいのかわかりませんが毎日指導員と親の気持ちが رفتったり来たり、大いに心揺れながら、子どもたちと毎日過ごしています。